

参加無料

定員

会場：50名
オンライン：200名

現場視点のビジネスアイデアを発表！
共に実現を目指しませんか？



UX Farmer's Pitch

農業に関する取組について、“農家起点”でオープンイノベーション及び実証実験の機会を提供する予定です。今年度は来年度以降に実施するプロジェクト案の創出を目指して、農業現場の視点からのビジネスアイデアと異業種との連携を目的とした発表会イベントを実施します。

2022.1.27 **木** 14:00-17:15
(受付 13:30-14:00)

くまもと森都心プラザ 5階プラザホール (熊本市西区春日 1-14-1)

会場とオンライン配信は同時開催し、会場の様子を YouTube ライブにて配信いたします。

(新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、熊本県のイベント等の開催制限におけるルールに基づき会場開催いたします。場合によっては、完全オンラインによる開催に変更となる場合がございますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。)



主催：熊本県（商工労働部産業振興局産業支援課）
運営：UX プロジェクト運営事務局

ホームページ：<https://ux-project.jp>

タイムテーブル

- 14:00-14:05 開会
- 14:05-14:10 概要説明 (当日の流れ)
- 14:10-14:20 事務局による取組説明
- 14:20-14:55 登壇者発表 (前半)
- 14:55-15:10 休憩
- 15:10-16:00 登壇者発表 (後半)
- 16:00-16:10 今後の取り組み
- 16:10-16:15 閉会
- 16:15-17:15 情報交換会



登壇者紹介 (50音順)

有限会社阿部牧場 「チーズ製造時における発生する未利用資源ホエーの活用法について」

昨今消費が伸びている国産ナチュラルチーズ。その製造過程で発生するホエー(乳清)は、保存が効かずにおいぎつくなるなどの理由から活用は難しく、また大手乳業メーカーを除いて有効的な活用がこれまで行われていなかった。今後、国産ナチュラルチーズの市場拡大が見込まれる中、中小規模のチーズ工場が多く出現する可能性が高い。その中で、チーズ製造時に生乳の90%近くを占めるホエーの利活用を進めることで、製造原価の低減を図ると同時にこれまでにない付加価値の創造を図り、国産ナチュラルチーズの振興に寄与したい。

連携イメージ

- 化粧品メーカー ●健康食品製造 ●大学などでの機能性の研究
- 乳酸菌の活用ができる研究機関など



阿部 寛樹
代表取締役

株式会社イノP 「イノシシ未利用部位の活用と持続的なイノシシ被害対策」

イノシシなど野生動物による農作物被害減少のため、耕作地へ侵入する野生動物の捕獲は効果的な手段であり捕獲頭数も年々増加している。捕獲したイノシシは食肉利用など新たな地域資源として見直され、全国各地で新たな商品開発が行われている。しかし、全国での野生動物の利用頭数は10%に満たない。そこで、本プロジェクトでは利用頭数、利用部位を増やし捕獲を促進。さらには、利用者が課題を認識できる機会となるモノを作り出したいと考えております。

連携イメージ

- 研究機関【イノシシの身体を成分分析可能な研究機関】 ●小売【医薬品販売に造詣が深い専門店など】
- メーカー【医薬品(錠剤をサプリや漢方へ加工、成形可能な医薬品メーカー)】
- 企業【CSR活動やSDGsとしてジビエを社食で利用したい企業など】



井上 拓哉
農家ハンター☆
ジビエファーム
施設長

株式会社クマモト敬和 「南阿蘇産ハーブを世界へ広げるプロジェクト」

弊社では、ハーブの生産(一次産業)からハーブティー小売・卸販売(三次産業)を行っており、国産ハーブの生産量は国内トップです。近年、『マインドフルネス』や『エンパワーメント』という言葉も急激に広まり、ハーブ需要は世界的に増加傾向です。今後の高ストレス時代とハーブ需要を見据え、南阿蘇で栽培しているハーブを世界に広められるハーブ製品開発を専門家様や研究員様と一緒に創造したいと思っております。

連携イメージ

- 熊本大学薬学部 ●熊大インキュベータ ●食品製造受託会社 ●製薬会社 ●ドリンク製造メーカー



宮野 敬之
代表取締役

株式会社 hakken & 高森町 「堅実で実直で最も効果的な、行政とスタートアップによるイノベーションの土台作り」

会議室と資料だけでは地域は盛り上がりません。テクノロジーだけでは課題は解決できない。全ての人に性格があるように、地域にもそれぞれ強烈な個性があります。hakkenは、自社のフードロス事業という定規を使って、その個性とイノベーションの距離を測ります。ロス野菜を乾燥するアップサイクル事業と、拠点を各地に分散させる地域密着生産モデルで、農業とICTに注力する高森町と共に「本当に必要なイノベーション」を探ってきました。行政とスタートアップが組む、サステイナブルな地方創生モデルです。

連携イメージ

- 熊本県内自治体へ、新規進出先の検討
- 地域の企業へ、社会性の高い素材を使った社員向け福利厚生やノベルティ開発
- 食品メーカー/OEMへ、アップサイクルプロダクトの共同開発
- 金融機関へ、事業へのファイナンス



竹井 淳平 / 村山 広樹
CEO / 農政課 係長

ハナウタカジツ 「届ける一箱につめる幸福量の最大化」

農産物をインターネット販売する際に、輸送には送料が発生し、それぞれ単体では生産者と消費者の2者のやりとりで終わってしまいます。品物があふれるインターネット販売のなかで、消費者の方は続けて良いものに出会うことが難しい。お届けする商品の段ボールには、隙間もあり、そこに他の方の何かしらの試供品を入れることもできるし、紙としてオススメの生産者の商品を書いてみるのもいいかもしれません。また、気軽に観光が出来なくなっているなか、既存の観光パンフレットを入れる事で、1度訪れたことがある方はそこを思い出し、行ったことがない方は今後の旅先の候補になることも。

連携イメージ

- 県内の試供品を試したい方



片山 和洋
代表

お問い合わせ

本ピッチイベントに関するお問い合わせはUXプロジェクト運営事務局までお気軽にご連絡ください。

UXプロジェクト運営事務局
(担当: 田島)
ux.project.info@gmail.com

お申し込み

UX Farmer's Pitchに参加をご希望の方は右記QRコードよりお申し込みください。

